

令和4年度新時代の英語教育推進事業

# 外部講師の先生による指導・助言

～小学校編～

## 英語教育実践リーダーが指導をいただいている先生方

- 金森 強 先生 (文教大学)
- 小泉 有紀子 先生 (山形大学)
- 酒井 英樹 先生 (信州大学)
- 阿野 幸一 先生 (文教大学)
- 太田 洋 先生 (東京家政大学)
- 阿部フォード 恵子 先生 (CALAインターナショナル)

英語教育実践リーダーは、年間を通じて様々な視点から実践へのご指導をいただきました。

指導・助言の一部をご紹介しますので、先生方もご自身の実践を振り返り、授業改善に役立ててください。



## 単元（本時）の目標

単元（本時）を通して、どんな力を付けたいのかを常に意識しながら授業を行うことが大切です。付けたい力に即して、「今日はどんなことができればよいのか」を明確にしましょう。



## 単元（本時）の目標

何をねらうかによって、それに合わせた手立てが必要です。色々なことをやろうとしすぎると、一つ一つが印象に残らなくなってしまう。

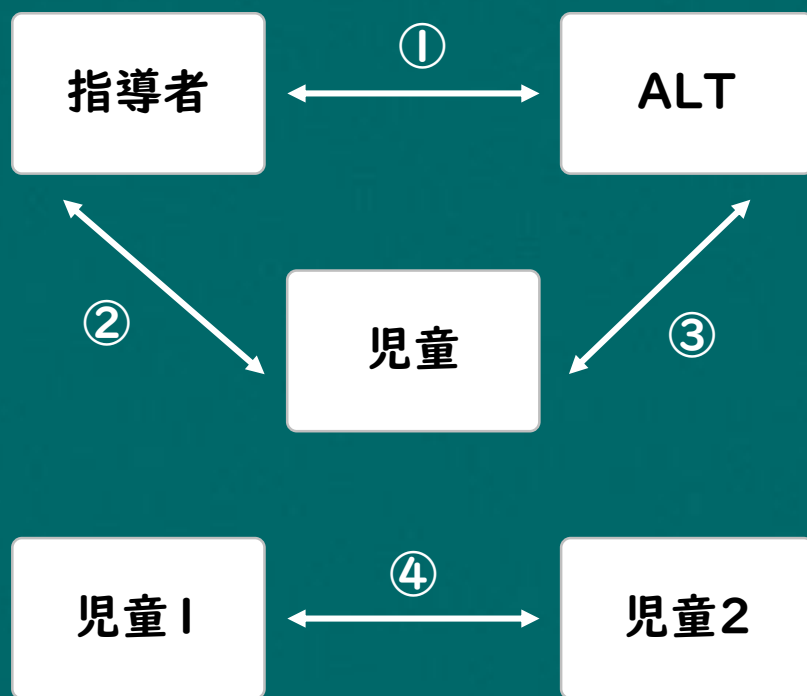


## やり取りの形(1/3)

授業の中には様々なやり取りの形があります。一つの形に限定せず、多くの形でコミュニケーションを図ることを意識しましょう。



## やり取りの形(2/3)



例えば、①のロールプレイの中に②、③のやり取りを入れるなど、様々なやり取りを意識することが大切です。



## やり取りの形(3/3)

児童同士のやり取りに重点が置かれがちですが、例えば、ある児童とALTのやり取りを聞いて、「なるほど、こう言えばいいのか。」と気付くなど、やり取りの形によって様々な意味合いを持ちます。





## 目的・場面・状況の設定

言語活動の目的・場面・状況は、「実際にどのような場面での活用が予想されるのか」を想定して設定しましょう。また、児童と目的・場面・状況を共有することで、活動に必要感が生まれ、全員が当事者意識を持つことにつながります。



## 「聞くこと」

児童の聞く力を高めるために、「何に気を付けて聞くのか」という視点を明確にすることで、児童にとって聞く必然性が生まれます。



## 「話すこと」

英文を暗記するだけの無味乾燥な訓練にならないように、児童の伝えたいことを活動にしていきましょう。その上で、言葉の大切さやコミュニケーションの意義を感じさせる指導を意識しましょう。



## 「話すこと」

やり取りでは、教師が質問して児童が答えるという形になりがちです。教師が「Ask me!」と問いかけ児童から質問を促したり、児童同士で質問したりする機会をつくり、やり取りすることに慣れるようにしましょう。



## 「話すこと」

型に入れ込む指導に力が入ると、「型通り」に話すことがゴールになってしまいます。例えば、型を提示してから話す内容を考えさせるのではなく、児童が話してみても、「こう言いたかった」「こう言うべき」という思いを中間指導で引き出す方法もあります。



## 「話すこと」

即興的なやり取りをねらった授業では、「わからないことは調べて、スピーチ原稿を作るぞ!」という意識ではなく、「今まで触れてきた表現でどう伝えよう」という粘り強い姿勢が大切です。



## Input

アウトプット（表現）活動を充実させるために、まずは、インプットとして聞く活動を十分に行うことが必要です。活動内容を吟味するなどして、十分なインプット量を確保しましょう。



## Input

一つの方法ではなく、様々な文脈や方法の中で聞く機会を確保しましょう。

複数のsや冠詞のaなども、はっきりと認識していなくても、何度も聞くことで気付きにつながるでしょう。





## Input

児童の発話を教師が英語でリキャストすることで、インプットの機会が増えます。児童が必要な表現に気付きにくい場合もあるため、リキャストの際は気付いてほしいところに絞るとよいでしょう。繰り返し行うことで、気付く児童が増え、周りの児童が気付いて学ぶことにもなります。



## Warm-up

Warm-upの活動では、

- ① Review … 既習を振り返る
  - ② Envision … 本時の学習内容を想像できる
  - ③ Motivate … 児童の言語使用を動機付ける
- の3つの要素を意識して行いましょう。



## 教科書の活用

教科書には様々な活動が設定されています。児童の多様な実態に適応できるように多くの活動が取り入れられているため、実態に合わせて効果的なものを選択するのもよいでしょう。



## デジタル教科書の活用

デジタル教科書の活用方法の一つとして、個別の時間を設けることが挙げられます。

(例) 聞く活動の時に数分間個別の時間を設ける。

必要に応じて戻ったり繰り返したりしながら内容を把握することができる。

